

# 基礎研 レター

## 出生・死亡、婚姻・離婚の概況

「平成23年人口動態統計月報年計(概数)の概況」より

生活研究部門 研究員 井上 智紀  
(03)3512-1813 tomoki@nli-research.co.jp

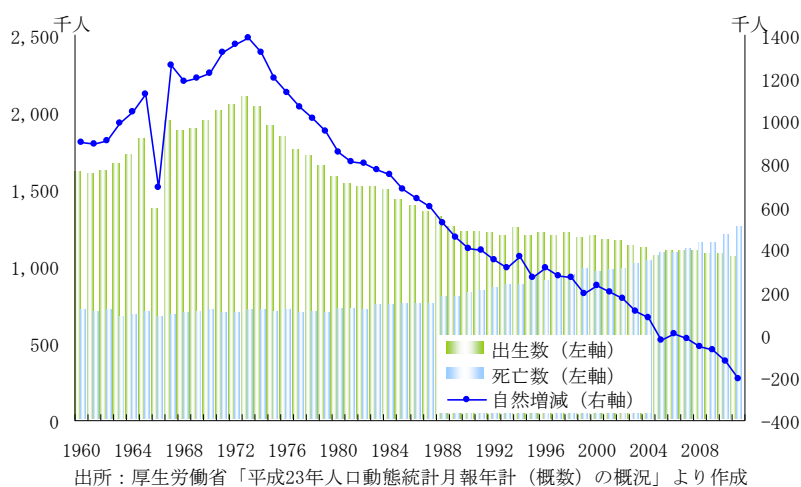
### 1— 出生・死亡の状況

#### 1 | 昨年1年間にわが国の人口は約20万人の自然減

6月初旬に公表された「平成23年人口動態統計月報年計(概数)の概況」によると、出生数は前年比2万1千人減の105万1千人、死亡数は前年比5万6千人増の125万3千人と、約20万人の自然減となった(図表1)。

東日本大震災における死者数(15,861人<sup>1</sup>)を差し引いても、死亡数は前年を4万人以上上回る計算となっている。国内の人口の増減については、海外移住などの社会移動の影響も加味する必要があるとはいえ、わが国の人口減少の傾向は実態の上でも明確に示されているといえる。

図表1 出生・死亡数の年次推移



#### 2 | 第一子出生時の母の平均年齢は30.1歳に

母の年齢階級別にみた出生数の年次推移をみると、30歳代前半までではすべての年齢階級で2年連続して減少しているのに対し、35～49歳まででは、2007年から5年連続で前年を上回って増加している。その結果、第一子出生時の母の平均年齢は0.2歳上昇して30.1歳となった(図表略)。

一方、合計特殊出生率は1.39と前年と同率であり、都道府県別では九州、中国・四国地方で高い(図表2)。前年との比較では大半の都道府県でわずかながら前年を下回り、前年を上回ったのは秋田、和歌山、鳥

<sup>1</sup> 警察庁緊急災害警備本部公表資料(H24年6月13日付、<http://www.npa.go.jp/archive/keibi/biki/higaijokyo.pdf>)による。

取、徳島、愛媛、鹿児島 の6県に留まっている。

### 3 | 50 年以上変動のなかった三大死因にも変化が

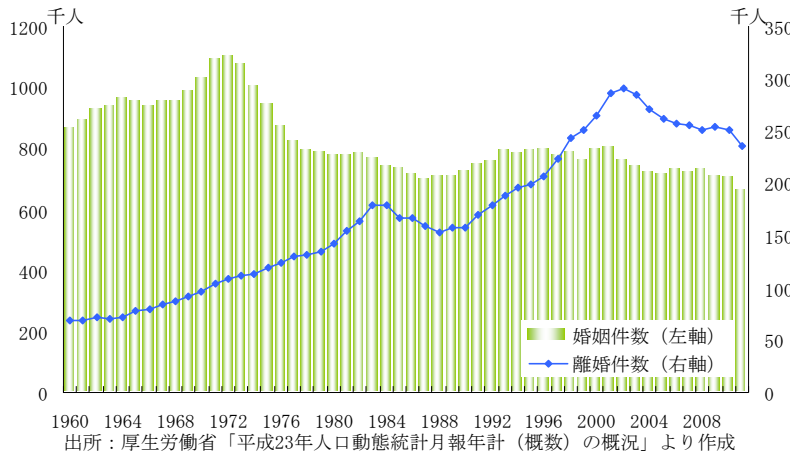
主な死因別死亡数では、村松<sup>2</sup> (2012) が予測したとおり、50 年以上もの長きにわたって三大死因の一角を占めていた「脳血管疾患」が「肺炎」にその座を明け渡す結果<sup>3</sup>となった(図表略)。ただし、死因の順位は性・年齢階級によって異なり、「肺炎」が死因の上位<sup>4</sup>になるのは、男性 70 歳代以上、女性 65 歳以上に限られている点には注意が必要であろう。

## 2— 婚姻・離婚の状況

### 1 | 婚姻・離婚件数はいずれも減少

一方、婚姻件数は前年比 3 万 8 千組減の 66 万 2 千組、離婚件数は同 1 万 6 千組減の 23 万 6 千組と、いずれも減少する結果であった(図表 3)。また、婚姻・離婚件数とも、近年は減少傾向が続いているものの、両者の差では婚姻件数の方が 42 万 6 千組多くなっている。

図表 3 婚姻件数・離婚件数の年次推移



### 2 | 東京都では女性でも平均初婚年齢が 30 歳に

平均初婚年齢についてみると、男性(夫)30.7歳、女性(妻)29.0歳で、男女ともに前年より0.2歳上昇している。男性では47都道府県中、10 県を除くすべての都道府県で 30 歳を超えているが、女性でも東京都では 30.1 歳と、初めて 30 歳を超えた(図表 2)。その他の道府県においても、近年は平均 0.2 歳ずつ上昇を続けており、晩婚化の進展についても、今のところ歯止めがかかっていない状況が確認できる。

ここまで概観してきたように、人口動態統計は、人口・世帯の1年間の移動状況を示す重要な統計指標である。継続して観察する中で、様々な業界、分野における活用が可能となろう。

図表 2 合計特殊出生率、平均初婚年齢の年次推移

|     | 合計特殊出生率 | 平均初婚年齢 |      |
|-----|---------|--------|------|
|     |         | 男性     | 女性   |
| 全国  | 1.39    | 30.7   | 29.0 |
| 北海道 | 1.25    | 30.2   | 28.7 |
| 青森  | 1.38    | 30.2   | 28.4 |
| 岩手  | 1.41    | 30.4   | 28.4 |
| 宮城  | 1.25    | 30.2   | 28.6 |
| 秋田  | 1.35    | 30.3   | 28.6 |
| 山形  | 1.46    | 30.1   | 28.3 |
| 福島  | 1.48    | 29.6   | 27.8 |
| 茨城  | 1.39    | 30.6   | 28.6 |
| 栃木  | 1.38    | 30.4   | 28.6 |
| 群馬  | 1.41    | 30.6   | 28.8 |
| 埼玉  | 1.28    | 31.1   | 29.2 |
| 千葉  | 1.31    | 31.0   | 29.1 |
| 東京  | 1.06    | 31.9   | 30.1 |
| 神奈川 | 1.27    | 31.5   | 29.6 |
| 新潟  | 1.41    | 30.5   | 28.7 |
| 富山  | 1.37    | 30.7   | 28.8 |
| 石川  | 1.43    | 30.3   | 28.6 |
| 福井  | 1.56    | 30.3   | 28.5 |
| 山梨  | 1.41    | 31.0   | 29.1 |
| 長野  | 1.50    | 31.1   | 29.2 |
| 岐阜  | 1.44    | 30.4   | 28.4 |
| 静岡  | 1.49    | 30.5   | 28.6 |
| 愛知  | 1.46    | 30.5   | 28.6 |
| 三重  | 1.47    | 30.2   | 28.4 |
| 滋賀  | 1.51    | 30.4   | 28.6 |
| 京都  | 1.25    | 30.9   | 29.3 |
| 大阪  | 1.30    | 30.7   | 29.2 |
| 兵庫  | 1.40    | 30.4   | 28.9 |
| 奈良  | 1.27    | 30.7   | 29.0 |
| 和歌山 | 1.49    | 29.9   | 28.4 |
| 鳥取  | 1.58    | 30.1   | 28.5 |
| 島根  | 1.61    | 30.3   | 28.5 |
| 岡山  | 1.48    | 30.0   | 28.4 |
| 広島  | 1.53    | 30.1   | 28.6 |
| 山口  | 1.51    | 29.9   | 28.4 |
| 徳島  | 1.43    | 30.0   | 28.5 |
| 香川  | 1.56    | 30.0   | 28.4 |
| 愛媛  | 1.51    | 29.9   | 28.4 |
| 高知  | 1.39    | 30.5   | 29.1 |
| 福岡  | 1.42    | 30.3   | 28.9 |
| 佐賀  | 1.61    | 29.9   | 28.3 |
| 長崎  | 1.60    | 29.9   | 28.6 |
| 熊本  | 1.62    | 29.7   | 28.3 |
| 大分  | 1.55    | 30.0   | 28.6 |
| 宮崎  | 1.68    | 29.8   | 28.4 |
| 鹿児島 | 1.64    | 29.9   | 28.4 |
| 沖縄  | 1.86    | 29.9   | 28.3 |

<sup>2</sup> 村松容子 (2012) 「三大死因が変わるかも」『研究員の眼』ニッセイ基礎研究所  
([http://www.nli-research.co.jp/report/researchers\\_eye/2012/eye120605.html](http://www.nli-research.co.jp/report/researchers_eye/2012/eye120605.html))

<sup>3</sup> 本稿の依拠する統計資料は概数であり、正式には本年 9 月頃公表予定の確定数を待つ必要がある。

<sup>4</sup> ここでは死因順位 1~5 位。なお、男性 20~44 歳、女性 20~34 歳では死因の最上位が「自殺」であり、今後のこの層の死因の推移にも注意が必要であるといえる。